

ハレ大学(ドイツ)

川本結子さん

留学期間:12ヶ月(2013年9月～2014年8月)



◆◆留学準備◆◆

この国(大学)を選んだきっかけは何ですか？

はじめはベルリン自由大学に留学してみたいと思っていたのですが、希望者が多く、先生からハレ大学はどう？と勧められたのがきっかけでした。どうしてもベルリンでなければいけない理由もないし、ハレ大学は宗教改革のルターとゆかりがあると知り、興味が湧きました。それに、多くの日本人が知っているベルリンより、皆が知らない小さな町ハレの方が、新しい発見があるかもしれないと思って決定しました。

どのようにして応募しましたか？

まずドイツ留学担当の相澤先生に相談し、その後ハレ大学担当の木島先生にご助力いただいて応募しました。応募の際は現地で有効な健康保険の証明書の提出を求められ、何回か応募し直しました。結局現地に到着後加入するということで了承してもらいました。10月頃行われるドナウの会というドイツ人との交流パーティーに参加し、ハレ大学からの留学生と知り合えたのも後に大きな助けとなりました。

どのように語学を勉強しましたか？

実は渡航前の自分の語学力はとてもひどいものでした。とりあえず一から文法を復習して、渡航前の春にA2レベルの試験を受け、合格しました。その後は単語帳を購入して独陰4級レベルの単語までは暗記しました(60%くらいしか覚えられませんでした)。それでもハレ大学の留学生として受け入れてもらえました。申込書にはB2がドイツの大学で勉強するのに必要なレベルとありますが、それより下を選択する欄も用意されているし、B2以下でも大丈夫かもしれません。

留学準備スケジュール

年月	準備
2013.1	ドイツ留学担当の相澤啓一先生に連絡。留学希望者向けの説明会に参加。 ハレ大学への留学希望者をお世話してくださる木島先生に連絡。
2013.3	Start Deutsch2を受験し合格。
2013.4	交換留学申し込み用紙を完成させ、木島先生がハレ大学に送付。
2013.6	現地の学生寮申し込み締切。
2013.7	航空券購入。
2013.9	留学へ！

◆◆留学体験記◆◆

留学してみてどうでしたか？

留学して良かったことは、ありきたりではありますが、自分がいつも身を置いている社会の当たり前から抜け出して新しい思考方法や価値観を知って、物事を俯瞰して見れるようになったことです。例えば文化摩擦が起こったとしても、一步引いて観察し、「どうして相手がそう考えるのか」が分かれば摩擦は減ります。この姿勢は帰国後も健在で、ドイツ以外の諸国・諸地域についても理解したくて幅広く授業や書籍で勉強しました。また俯瞰したものの見方は、一つの視点に縛り付けられていた自分を解放してくれて、一度に複数の視点から物事をみれるようになったので、一度に得る情報量が以前より格段に増え、授業・書籍・人とのコミュニケーション全てにおいて日々新しいものを得る楽しい生活を与えてくれました。

留学先での生活はどうでしたか？

月々に必要なお金は家賃・光熱費・インターネット代が合わせて 200 ユーロ程、食費・雑費が 200～300 ユーロでした。ハレはドイツの中でも格安で生活できます。仕送りは月々5万貰っていました。日本の新生銀行・楽天銀行などで口座を開設し、そのキャッシュカードを使えば海外 ATM でも自分の口座から現地の通貨でお金を下ろせます。ただし、家賃の引き落としのために現地の口座も開設しました。食事はほぼ自炊していました。学食がありますが、一食 4 ユーロくらいで、あまりおいしくないのに量が多いです。パン屋さんがたくさんあるのでサンドイッチはたまに買っていました。一つ 3 ユーロくらいです。あとはケバブをよく食べてました。一つ 3 ユーロくらいです。健康保険は渡航前に加入しました。一年間で 13 万円くらいのプランです。ドイツ語で書かれた保険証明書を大学の在籍手続きの際に持って行きました。

大学では何をしましたか？

私は週に 5 回程の語学クラスと、週に 3 回程の宗教学の講義を受講していました。語学クラスでは各国からの留学生とともにドイツの一般常識を学んだり、社会問題について議論したり、自分の国について紹介したりしました。宗教学の講義は学部の正規学生向けの授業で、とても難しかったです。次第に理解度が増していきました。また、日本学を専攻する学生との交流会が二週間に一度あったので、そこでドイツ人の学生と知り合いました。仲良くなった友達とはタンデムパートナーになって、週一度会ってドイツ語や日本語で会話しました。週末は大抵タンデムするか、友達とホームパーティーをしました。長期休みには近隣諸国を旅行したり、ドイツ人の友達の実家に遊びに行きホームステイのように過ごしました。

後輩へメッセージ

この冊子を手にとっているあなた、少しでも留学に興味があるなら、是非留学してみてください！！お金がかかるとか、就活が心配とか、英語以外は意味ないとか、そんなネガティブ思考は二の次です。そんなのどうでもよくなるくらい得るものがあります。私はまだまだここに書き切れないくらい収穫がありましたよ。

サンクトペテルブルグ大学(ロシア)

大田隆之さん

留学期間:11ヶ月(2011年5月～2012年3月)



◆◆留学準備◆◆

この国(大学)を選んだきっかけは何ですか？

一年生の頃ドストエフスキーを読んでいまして、とりわけ『罪と罰』が好きでした。ロシア語圏に留学すると決めたとき、小説の舞台であるサンクトペテルブルグ以外へ留学することは考えませんでした。

どのようにして応募しましたか？

まず、留学生センターが作っている交換協定校のリストを見ました。それぞれの協定校には、必ず担当の先生が記されているので、その先生に直接連絡しました。また比文の2つ上の先輩に、ペテルブルグ大へ留学に行った方がいたので、その人にも会い、留学前の準備から留学先での生活まで、いろいろとお話を伺いました。

どのように語学を勉強しましたか？

ロシア語圏の場合、たいてい留学前に語学の試験を受けることを義務づけられていません。

私は、受験英語は得意でしたが、受験的な語学の勉強法にはうんざりしていました。文法と読解はできるようになっても、話すことがまったく身に付かないからです。

ロシア語では、話すことを優先して勉強したいと思っていました。発音やイントネーションを重視して、ネイティブが話すCDを毎日聞くようにしていました。

しかし、実際に留学に行ってから、日本にいるうちにもう少し基本単語と基礎文法をやっておくべきだったと、後悔しました。留学前は、せめて T P K H (ロシア語の検定試験) のレベル1くらいには達しているべきだと思います。

留学準備スケジュール

年月	準備
	留学の準備を始めたのは大学一年生の9月末だったと思います。そのときはまだロシア語を始めてすらいませんでした。(第二外国語は中国語でした。) 一年生の夏休みに、先攻を早めに決めてしまおうと思い、海外文学を読み漁っていました。そのときに、ドストエフスキーとトルストイに出会い、魅かれたので、総合文学科でロシア文学を先攻することを決めました。卒業論文を書くころには、作品を原典で読めるようにしたいと思い、ロシア語をはじめ、3年次でロシアに留学することも決めました。 そこで、ロシア文学の加藤先生やロシア語学の臼山先生に連絡をしました。臼山先生は、2年次のあいだに1年間ロシア語をしっかりと勉強したら、3年次にペテルブルグに優先的に留学させようと言ってくださいました。 その後、1年間勉強をし、留学が近くなったらパスポートやビザなど、必要な書類を整えました。

◆◆留学体験記◆◆

留学してみてもうでしたか？

留学して良かったことは、自分の考え方の枠組が変わったことです。うまく説明することは難しいですが、あまり日本人的に発想しなくなったというか、相対的な視点を持てるようになったということです。

例えば、ロシア人は、初対面の人に対してたいてい愛想が悪いです。街中やメトロですれ違う人はぶすっとしていて怖い。しかし、一度友人になれば、これほど情に厚い人はいないと思えるほどです。一方、日本人は、初対面の人に対しても礼儀正しいですが、友人になってからもお互いに遠慮するし、礼儀を守る。

人間関係の基礎的なあり方が日露で違うのです。今は日本に暮らしていて、日本で働いていますが、この日本人式の人間関係が唯一無二のものとは思わず、他にもたくさんあるうちの一つとして見られるようになりました。

留学先での生活はどうでしたか？

生活費はひと月1万～10万円くらいかかっていました。うち、5万円はJASSOの奨学金で、残りは親からの仕送りでまかっていた。それらの費用に加え、学費が年間53万円、飛行機の往復のチケット代が15万円くらいかかったので、一年間で総額200万円程度の費用が必要でした。仕送りは、財布の底が尽きたら、その都度、数十万円を一度に両親に送ってもらっていました。

住まいは大学の留学生用宿舎でした。ルームメイトははじめの頃、しょっちゅう変わりましたが、最終的には、中国人、スロベニア人、フィンランド人の3人の留学生と共同生活をしていました。

大学では何をしましたか？

留学先の大学で勉強していたのは、主にロシア語です。ロシア人の学生に混じってロシア文学史の授業にも顔を出しましたが、半分以上何を言っているのかわからなかったし、内容も退屈だったので行かなくなってしまいました。

授業以外では、友人を学内外で作り、なるべくロシア語で話すようにしていました。また家庭教師をとって勉強をみてもらいました。ロシア語でロシア人に日本語を教えるバイトもしていました。

なかでも、一番勉強になったのは、小説や戯曲や詩を原語で読んでいるときと、演劇観賞でした。

ペテルブルグには、マールイ・ドラマ劇場という小さな劇場があります。演出家のドージンが有名で、劇の質は市内随一です。その劇を週3、4回は見に行っていました。中でも『ワーニャ伯父さん』が素晴らしかったので、友人と原書を一幕訳しては観劇に行き、一幕訳しては観劇へ、という活動もしていました。

後輩へメッセージ

帰国してから、比文内の留学生仲間との付き合いが増えました。カナダへ行った男子や、スペインへ行った男子、ペルーへ行った女子、中国へ行った女子など、行き先はさまざまですが、みな同級生で、5年間大学に通った人たちです。仲良くなったのは、比文サテで毎日顔を合わせて、一緒に卒業論文を書いていたからです。似たような体験もしていましたが、それぞれ独自の留学をしていました。留学に決まったやり方はないし、こうすれば成功するというものはないので、自由に好きなことを突き詰めることが重要だと私は思います。

サンクトペテルブルク大学(ロシア)

関根瑞恵さん

留学期間:12ヶ月(2011年4月～2012年3月)



◆◆留学準備◆◆

この国(大学)を選んだきっかけは何ですか？

もともと第二外国語でロシア語を選択しており、ロシアという日本とはまったく違う国をより深く学んでみたい、実際の人々や生活に触れてみたいという気持ちがありました。

決心したのはドストエフスキのカラマーゾフの兄弟を読み、作中の問いの答えを探したいと思ったからです。専攻とも異なり将来に繋げる気もありませんでしたが、だからこそ大学時代にロシアへ行かねばと思いました。

どのようにして応募しましたか？

自分のときは、留学に意欲的だった人文の臼山先生のお力が大きいです。週に一回留学したい人のための勉強会を開いてくださっていて、私は希望を確定しないうちから参加させていただいていたので、勉強会でサンクトペテル大学を希望しました。必要書類も臼山先生を介して提出しました。

先方の都合で招待状が遅れましたが、ロシアではよくあるので不確定なうちは飛行機チケットもとりませんでした。

どのように語学を勉強しましたか？

ロシア語圏への留学は定員割れしやすいので、応募の際の語学力は指定されませんでした。ロシアに渡るにあたり、英語は使えないと聞いていたので、旅行用の小さく簡単な日常会話本は暗記しました。あとは特に格変化を、表の暗記はもちろん、素早くできるように目についた単語で常時練習するようにしていました。

城田先生のロシア語文法書は終えておくよう言われますが、不安な単元を優先して読み込めばいいと思います。

留学準備スケジュール

年月	準備
2010. 4	留学希望者のための勉強会に興味本位で参加。
初秋	留学を決める。
2010. 12	臼山先生のもつ留学体験記を読み漁る。とても参考になる。
2011. 3	Citybank、新生銀行の口座を開設 東日本大震災が起こる。 ロシア研究は七階なので被害甚大 アパートを引きはらい実家へ
2011. 4	招待状がなかなか来ない。 招待状が来たので飛行機のチケット(約十日後)を取得。 大使館へ行ってビザを頼む。一週間で請け負ってもらう。 当面必要なものだけ荷物に詰め込む。以外は宅配を親に頼む。 出発前日にビザを受け取る。 留学へ！

◆◆留学体験記◆◆

留学してみてどうでしたか？

生活面では、トイレが汚くて座れなかったこと以外には不便を感じませんでした。季節で極端な差のある日照時間も、川が歩けるようになる冬の寒さも、それぞれの楽しさがあって毎日幸せに暮らしました。

良かったことは、書ききれないほど多かったです。信仰にも芸術にも浸かりました。日本はやはり西側ですし、政治面社会面での偏見も情報の偏りも自覚します。なによりも共産主義の理想を一度抱いたあの国は、日本とは社会通念や価値観が異なります。ロシア人は憎めないほど我欲に正直で感情に素直で、礼儀で隠しも誤魔化しも出来ません。自分が困るとたまに理不尽に怒ってきますが、あれに悪意はないです。それを当然としながら、社会として成り立っています。一年いてようやく（日本人の感覚で思う）子供の国という表現を見付けました。自分の都合で怒り、可哀想だという言葉に虚飾と優劣と嘲りを持たせられない人々です。

留学先での生活はどうでしたか？

慣れれば日本より便利なことの方が多かったです。自分が行った時の物価は日本と同じくらいでしたが、宿泊や交通、観劇などは断然ロシアが安価かつ便利です。公共交通機関の充実が目を見張るものがあります。加えて学割も強いので、博物館やオペラ、バレエ、演劇などの芸術関係は信じられないほどの安さで見ることができます。通信もネットはyotaのUSBを電気屋で購入しATMに使う日数分だけ振り込めばいいので、日本より安易で便利です。月々の仕送りは、たくさんATMがあるのでCitybankがあれば問題ありませんでした。住まいの面では、私はロシア人ばかりの寮でロシア人の女性二人との共同部屋だったので、どうあがいてもロシア語、二部屋にひとつキッチンとトイレ付きの海見える素晴らしい部屋(17F)で、月々一万円から二千といったところで大変良かったです。酷い寮もあるので、はずれたらホームステイもあります。

大学では何をしましたか？

授業は週に五日、午前か午後にあるだけで、出席もゆるく自由度はとても高いです。空いた時間は観劇か教会か旅行に費やしました。基本的にロシア語学習の留学生のためのクラスで学びます。一クラスの人数はさほど多くもなく、入れかわりもあります。レベルが自分に合わないと感じたら簡単にクラスも変えてもらえるので安心です。内容はロシア語検定試験を目標にはしていますが、会話の授業で様々なことが話題にのびりますし、クラスによって文化や文学も基本的なことは教えてくれます。物足りない場合は大学の授業に紛れ込みました。大学でツアーやイベントの紹介もしてくれるので参考にしてください。大学前のネバ川でも行われる一月のクリシェーニエは見ものです。サンクトペテル大学の本学はなかなか美しい所です。

後輩へメッセージ

芸術も思想も宗教も文学も社会も、ロシアには一見の価値があります。

自分では無自覚な思考の基準や価値観を知るにも、留学はいい経験です。比文には「〇〇的な」という言葉に反発を覚えるひとは多いでしょうが、それでも“ロシア的”としか言い表せないあの国を、いつか資本主義のなかで失われてしまうかもしれないロシア的な人々たちを、なによりも知ってほしいと思います。

だけど家とマック以外のトイレは本当に汚いから、こだわりある人は気を付けてください。

ブルギバ・スクール(チュニジア)

堀内栞さん

留学期間:5週間(2014年7月～2014年8月)



◆◆留学準備◆◆

この国(大学)を選んだきっかけは何ですか？

FSP(フルサ・サイーダ・プログラム)としてチュニジア・ヨルダンへ語学研修を行うプログラムが、数年前より北アフリカ研究センター主催で行われています。この中でも現地の由緒ある語学学校の1つ、ブルギバ・スクールでレベル別の授業を受けることができる、チュニジアへの渡航を決めました。又、ASIP(地域研究イノベーションプログラム)にて、2016年度より再び北アフリカへの交換留学を予定しているのも一つの理由です。

どのようにして応募しましたか？

プログラムの担当教員である岩崎真紀先生より直接情報をいただき、検討をはじめました。また、留学フェアや去年度の参加者の帰国報告会でも貴重な体験談をお聞きすることができました。応募する際、細々とした書類集めや現地語学学校への申込(フランス語)等に少々手間がかかりますが、北アフリカ研究センターの事務員の方や去年度参加者の方々のサポートがあり、無事済ませることができました。

どのように語学を勉強しましたか？

この研修では特に必要な資格はありません。私は大学入学時より第3外国語としてアラビア語の学習を始め、今年で3年目となりました。基礎的な文法は既に習った状態でチュニジアに向かいました。しかし、ブルギバスクールではアルファベットから始める初心者クラスからあるため、この研修からアラビア語を始めることも可能です。今回の研修でも未学習者が2名いましたが、最終的にはクラスを首席で卒業するほど上達する方もいました。

留学準備スケジュール

年月	準備
(1年次)	アラビア語の学習を始める。
(2年次)	
2013. 11	前年度参加者の帰国報告会、また留学フェアでのブース説明に訪れ、プログラムの概要を知る。
(3年次)	
2014. 4	プログラム説明会
2014. 5	申し込み準備開始 チュニジアでの語学学校への申し込みに加え、奨学金や保険の手続きもあるため、早くから準備すべき。
2014. 6	航空券取得 事前研修会 各国の基礎情報確認と、プログラム参加生との顔合わせ
2014. 7	留学へ！

◆◆留学体験記◆◆

留学してみてどうでしたか？

滞在していた首都のチュニスとは想像よりも近代的で、西欧的な街並みでした。しかし、それでもチュニジアは殆どの国民がムスリムです。毎日アザーン（イスラム教により礼拝への呼びかけの放送のこと）を聴き、自分がムスリム国家に居ることを実感しました。また、研修期間の前半はラマダーンとかぶったため、そのための発見も面白かったです。日中は軒並みお店がしまっており、街中の人々も心なしかせかせかしているように感じました。ラマダーンの明ける 8 時前には、日没後の夕食の準備で通りに人が全くなくなります。それから 30 分もすると街には打って変わって人が溢れかえり、お祭り騒ぎが夜中まで続いていました。この他にも地中海でのバカンスや砂漠でのキャンプ経験、またこの中で多くの人々との出会い等、語り切れないほどのことが、この研修を通して得ることができたと思います。

留学先での生活はどうでしたか？

JASSO から 1 ヶ月分の奨学金として 6 万円を頂いた。又、チュニジア政府の奨学金により、寮費（50€）と授業料（400€）が免除となった。チュニジアへの航空券代は 15~20 万円ほどであり、私自身の 5 週間の研修及び 1 週間ほどの国内観光を合わせた費用は、23 万円（ここから 6 万円が引かれます。）ほどです。お金の持っていく方としては、いくらかの日本紙幣・クレジットカード 1 枚・国際キャッシュカード 1 枚を持って行きました。どれも使用が出来ましたが、ドルやユーロの紙幣があるとさらに便利であったかと思います。学生寮は 3 人一部屋バストイレ付で、インターネットはラウンジで無線 LAN が使用出来ました。携帯は現地のプリペイド形式の携帯が 1500 円程から買え、主な連絡手段として使用しました。食事は、個人調達ですが、寮に共同キッチンがあるため、スーパーで食材を購入して自炊を行う日が多かったです。

大学では何をしましたか？

授業は平日の朝 8 時~13 時まで、5 週間みっちりあります。1 クラス 15 人程度に分けられ、Speaking と Writing の 2 コマの授業をそれぞれ別々の先生から受けました。最終週には試験があり、合格点に達すると修了証書をもらうことができます。授業は基本的にはアラビア語で進められますが、西欧からの学生も多いため、質疑応答ではフランス語を使う場面も多かったです。（質疑応答はとても活発でした）英語は担当の先生によりけりですが、苦手としている人が多い印象でした。私の場合は英・仏両方わかる他の学生に通訳してもらっていました。またオプションコースとしてチュニジア文化を体験できる課外授業を自由に受けることができました。アラビア書道や民族舞踊、料理や詩の朗読に至るまで様々な体験が選べます。

後輩へメッセージ

大したことは言えないのですが一つ伝えたいのは、気軽に（勇気をもって）参加してみたい、ということです。アラビア語未学習者の方にとっても、初習外国語をその現地でネイティブの先生に習えるというのは、大変貴重な経験になるかと思います。これが将来に向けての何かファーストステップとなるかもしれません。アラビア語、チュニジア、イスラム教、地中海、砂漠、アラブ、クスクス、遺跡、海外留学、人々との出会い…等、参加を志すキーワードは多数あります！気負わずに参加してみてください。

ヨルダン科学技術大学(ヨルダン)

田中愛子さん

留学期間:1ヶ月(2013年8月)



◆◆留学準備◆◆

この国(大学)を選んだきっかけは何ですか？

母語として使用されている国で現地の人々や文化に触れつつアラビア語を学びたかったことが一番大きな理由です。また、フルサ・サイーダプログラムのヨルダンコースはABCモジュールまで授業のある比較文化学類でも長期休みを使って行くことができるので、授業数の多い2年次でも参加することへのハードルは低かったです。

どのようにして応募しましたか？

プログラム自体は、岩崎真紀先生に授業中紹介していただいて知りました。実際に応募するきっかけとなったのは学内に掲示されていたポスターを見た友人が教えてくれたことです。主査でありプログラムにも詳しい岩崎先生に相談した後、ポスターに記載されていた担当教員の入江先生に連絡し応募しました。プログラムが始まった最初の年ということもあり応募者も少なく、比較的スムーズに話が進みました。

どのように語学を勉強しましたか？

恥ずかしい話ですが1年次の英語のクラスは G2 という英語力の低さでした。応募の際に基準はなかったので参加しましたが、おかげで TOEFL 等も特に勉強することもなくプログラムに臨んでしまいました。アラビア語に関しては初級レベルの復習と挨拶やちょっとした日常会話を勉強し直しました。これから参加する方は是非日本にいる間に語彙を増やしてもらいたいです。語学研修中は毎日が怒涛なので、なかなか新しい単語を増やすことは難しいです。

留学準備スケジュール

年月	準備
2013. 5	プログラムに参加したいと考える。 親、先生に相談し行くことを決める。 当時のバイト（家庭教師）先にお休みの許可をいただく。 担当の先生に連絡。
2013. 6	一緒に行く学生と連絡を取り、渡航日程やその後の旅行の打ち合わせなどをする。 パスポートを取る。
2013. 7	海外に行くに当たり必要なものを各方面に聞き、買い物をする 冷蔵庫の中身を片付ける。
2013. 8	留学へ！

◆◆留学体験記◆◆

留学してみてどうでしたか？

“英語を話す”ことへのハードルが下がったことが一番大きいと思います。日本人は英語が話せないと言われるますが、私もその例にもれず何か言いたくても言葉が出てこなかったり文法や発音を気にして話すことをためらってしまっていました。もう英語しか通じない！という状況でなんとか話し、意外と通じるものだと感じました。筑波大学には留学生も多いのでそれ以前も外国の方と話す機会があったのですが、日本語が堪能な方が多いので日本語で樂をしがちでした。アラビア語に関しては日本にいてはほぼ確実に使える機会がないですから、読み書きだけでなく話せるようになりたいのなら絶対に現地に行った方がいいと思います。

留学先での生活はどうでしたか？

1カ月ということと当時クレジットカードを持っていなかったこともあり、現金で持って行きました（今考えるとなかなか恐ろしいですが）。クレジットカードやキャッシュパスポート（日本から入金出来て外国のATMで銀金を引き出せるシステムのカード）を使うと良いと思います。

私たちは3人で4人用の部屋（おそらく留学生用）に入りました。寝室2つに台所とシャワーとトイレ、大きな居間がありました。居間につないだPCでインターネットを使っていました。

食事は、休みの日にスーパーに買い物に行き、朝晩は3人で作っていました。主食のパンは安くて美味しかったです。果物も安かったのでぶどうを大量に買い込み皮と種を取って冷凍する、というおやつが流行りました。昼は学校の食堂で言葉が通じないなりに注文して食べていました。

大学では何をしましたか？

一週間ほど私たち筑波大生3人に先生1人という状況でアラビア語を学びました。その後の農業施設見学も学生は私たちだけだったので、授業で他の学生と交流することはなかったです。集中授業のような形だったので空きコマがあるわけではなく、午後の授業が終わったあとは時間があり、料理をしたり宿題をしたりしていました。また、チューターのような学生が2人ほど付いてくれて、彼女たちに街を案内してもらったりアラブ料理を作ってごちそうしてもらったりしました。女子学生は外ではスカーフをして長いコートを着ている人が大半で、それはそれでとてもオシャレなのですが寮の中ではまた一味違った姿が見られます。女性の方はぜひ現地学生の棟に遊びに行ってください。

後輩へメッセージ

非英語圏に行くというのはハードルが高いかもしれませんが、ヨルダンと比較的英語も通じ治安も良いので初心者にもおすすめです。ニュースのイメージでしか語られない中東をぜひたくさんの人に見てもらいたいです。美人でオシャレな女子大生を見たら、きっとムスリマがかぶっているスカーフの印象も変わると思います。1年や半年も留学はちょっと……という人も、気軽に参加してみてください！

復旦大学(中国)

中根彩さん

留学期間: 約2年間(2013年9月~2015年7月)



◆◆留学準備◆◆

この国(大学)を選んだきっかけは何ですか？

復旦大学は中国でも上位に位置する総合大学のため、レベルの高い講義に、参加出来ると考えました。また留学生に対して語学クラスだけでなく、いくつかのコースを用意しているため(語学クラスの他に中国文化社会クラス・中国経済クラスなどがあります)。そして北京ではなく上海を選んだ理由としては、環境汚染を考慮した為です。

どのように語学を勉強しましたか？

渡航前の語学力は新 HSK 四級レベル、渡航直前に五級(180点少し)の成績です。第二外国語として大学3年まで学びました。当時は中国留学を意識しておらず、授業以外での取り組みはありませんでした。後しばらく学習しない期間が続き、留学にあたり再度独学で勉強を始めました。勉強方法としては、オンライン中国語会話を活用、復習として『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』や『快速マスター中国語』を通読、キクタンなどで語彙を増やしました。

どのようにして応募しましたか？

大学卒業後の留学を考えていた為交換留学の選択肢はなく、公費留学に辿り着きました。まず在学中に奨学金申請の為に必要な書類を揃え、日本学生支援機構の試験(書類審査・面接)通過後、中国政府に公費留学生として申請。第三志望までの大学の中で振り分けられ復旦大学に決定しました。応募に当たり留学生センター等利用せず、直接比文中国語担当の先生に相談、また学外で奨学金の説明会に出席しました。

留学準備スケジュール

年月	準備
(3年次)	
2012. 5	日本学生支援機構・海外留学説明会に参加。比文の中国系専門の先生方にお話を伺う。
2012. 6	新HSK四級受験
2012. 9	奨学金申請に必要な書類を事務で確認、また推薦書について先生方に前もって作成をお願いする。
2012. 12	日中友好協会奨学金要項発表、書類準備を始める。
(4年次)	
2013. 1	日中友好協会奨学金出願(併願)。
2013. 2	日本支援機構の中国留学奨学金説明会に出席。書類準備。
2013. 3	日本支援機構へ出願。 書類審査通過・身体検査を指定病院で受ける。
(卒業)	
2013. 4	面接
2013. 6	面接合格通知、新 HSK 5 級受験
2013. 8	大学決定、渡航

◆◆留学体験記◆◆

留学してみてもうでしたか？

中国のイメージは変わりません。相変わらずやかましくて大きな国です。でも留学してみてそのやかましさは、これだけ人がいるから声を張らないと言葉が届かないのかな、と思ったり、逆に知らない人と屈託なく話せて、大きく笑えたりすることは気持ちのいいことだと思ったり。実際に中国の各地に足を運んで、東西南北異なる衣食住、歴史や文化に触れて、その悠久の歴史を実感したり。全部、私達が日本から見てきた中国には、中国なりの理由があり、その尽きる事のないネタの豊富さが、とてもすごいし、この上なく面白いです。※良いところばかりでは勿論なく、日本に比べると気の行き届かない所（ドアのないトイレをそのまま放置！おばちゃんそのまま利用）、不衛生なところ、空気が汚い所（世界で一番遠い場所は？空気汚染で目の前が見えないときの中国、などのジョークがあります）は生活する上で大変かもしれません。

留学先での生活はどうでしたか？

上海は物価がとても高い都市ですが、食べ物については安い物から高い物まで。私は公費生なので、学費・寮費（光熱費込）は免除、生活費 1700 元を毎月受給、それに加え留学前に貯めた貯金を使いながら生活しています。銀行口座は奨学金受給の為に中国農業銀行を開設（指定）、また日本の新生銀行に普通口座を開設し、日本円をこちらの ATM で直接引き出せるようにしています。復旦大学の留学生寮は思ったよりもずっと清潔でした。今は四人部屋に住んでいますが各々に小さな個室と、共有スペースがあります。調理器具を自分たちで揃え、主に自炊しています（もちろん食堂もあります）。ネットは 1 ヶ月 6M80 元を四人でシェアしています。現在 FB・LINE・Gmail 等へアクセスが出来ないため、VPN が必要です。保険は海外保険に加入するのが便利かと思いますが、学内の診療所であれば診療 10 元程度で受ける事も可能です。

大学では何をしましたか？

1 年目前期はこちらの中国文学部で中国人大学生と共に授業を受けました。しかし全くついていけず、ピンインを書き取り、単語を調べる日々が続きました。専門授業の他、受講出来る中国語の授業が少なく、第 2 学期は留学生用の語学クラスに移りました。語学クラスは中国語を専門に学べる事がメリット、留学生ばかりで中国大生との関わりが少なくなることがデメリットですが、ランゲージパートナーとの学習や、部活への参加、本科聴講の継続などで解消できました。第 2 学期の最後には新 HSK6 級を取得、現在第 3 学期として中国文化・社会コースに移って古代～現代の文学・歴史等を勉強しています。他にも聴講として中国書道史や印作の授業を受講しています。また学生という身分を利用し、中国の各地へ旅行しています。中国はやはり広い！大都市上海では感じ得ない中国を感じる事が出来ます。（写真：内モンゴル、右側私です）

後輩へメッセージ

“路遥知馬力、日久見人心”という言葉があります。「馬には乗ってみよ、人には添うてみよ」という意味です。近くて遠い国、中国に興味が少しでもあるなら、飛び込んでみることをおすすめします！いろいろな意味で、絶対にその興味・関心を裏切らないのが中国だと、私は思います。

梨花女子大学(大韓民国)

Y . N さん

留学期間:11ヶ月(2012年2月～2013年12月)



◆◆留学準備◆◆

この国(大学)を選んだきっかけは何ですか？

第二外国語として韓国語を選択したことで韓国文化に興味を抱き、韓国に留学することを決めました。また、大学の授業を通しジェンダーとマスメディアについて関心を持っていたので、女性学で有名な梨花女子大学を選びました。

どのようにして応募しましたか？

筑波大学の交換留学制度を利用し、梨花女子大学に留学しました。交換留学を担当されていた先生が、私の韓国語の恩師であり、梨花女子大学の卒業生であったので、たくさん相談に乗って頂きました。

どのように語学を勉強しましたか？

日本では、大学で韓国語の授業を受講し、ドラマや映画、音楽などを通し、韓国語や韓国の文化を学んでいました。渡航前は韓国語能力試験 2 級程度の実力でしたが、幸運なことに韓国留学の場合語学力は問われないので、留学したいという熱意があれば誰でも留学するチャンスが与えられていました。

留学準備スケジュール

年月	準備
(3年次) 2011. 11	韓国留学説明会に参加。主任の先生や学類長室へ報告。留学生センターに相談。書類を揃えてインターネット上で留学先に提出。
2011. 12	学期の途中で留学に行くため、筑波大の先生方に試験方法や成績について相談。
2012. 1	留学保険に加入。 韓国大使館にビザの申請へ。
2012. 2	留学へ！

◆◆留学体験記◆◆

留学してみてもうでしたか？

何よりも、日本では韓国について関心のある知り合いがいなかったもので、韓国に興味を持って集まった世界各国の学生達との出会いとても刺激的で、感動した覚えがあります。また、卒業論文を韓国について取り上げていたので、日本では手に入らない文献や資料を集めることができたことや、韓国での生活を通し自ら発見できる点が多くあったことが、卒業論文を書く上でとても役に立ちました。

留学先での生活はどうでしたか？

留学生数名に対しひとり、韓国人の学生がメンターとして付いてくれたので（梨花女子大学では PEACE Buddy と言います。）銀行口座開設時や携帯電話購入時にサポートしてもらい、韓国での生活をスムーズに始めることができました。交換留学生は、希望すれば大学の国際寮に入れます。寮は冷暖房、インターネットも完備されているのでとても快適でした。唯一キッチンにはコンロ等が無く、電子レンジしか使えなかった点が不便でしたが、学内に学食も多く、学校の周辺にも安くておいしいお店がたくさんあったので、食事について困ることはそれほどありませんでした。

大学では何をしましたか？

月曜日から木曜日の 1, 2 限は韓国語の授業を受講し、午後からは自分の関心のある分野の授業を受けていました。英語で行われる授業も充実していたので、韓国語に自信が無くても問題ありませんでした。韓国の学生は授業にも積極的に参加し、とても勉強熱心です。初めて授業でプレゼンテーションを行った際は、クラスメート達のプレゼン能力の高さに衝撃を受けた覚えがあります。その他にも週に 1 回、空き時間に韓国人の学生に韓国語を教えてもらったり、夏休みは短期留学生向けのプログラムに参加したりしていました。

後輩へメッセージ

私は就活と卒論について考えなければいけない 3 年の 2 月に韓国留学をスタートさせました。あの時、「もう 3 年だし、就活もあるし…」と留学を諦めなくて良かったと心から思っています。皆さんももし行きたいと思ったら、自ら「でも…」とブレーキをかけずに行ってみることをお勧めしたいです。

カセサート大学(タイ)

斎藤俊介さん

留学期間:10ヶ月(2012年6月~2013年3月)



◆◆留学準備◆◆

この国(大学)を選んだきっかけは何ですか？

学部2年次、人間学群コアカリキュラム科目「国際教育協力実習」を履修した。2011年7月~9月、当該プロジェクトにてタイ、バンコクのカセサート大学付属学校へ日本語教育補助のため渡航し、現地の雰囲気、文化に触れ魅了されたのがきっかけで、帰国後しばらく経ってから交換留学を決意した。

どのようにして応募しましたか？

当時、先輩から渡された交換留学先大学の一覧表が手元にあり、そこには筑波大学側の世話役教員の情報も記載されていた。交換留学先はタイで決めていたので、ひとまずタイ留学相談を一手に引き受けていた先生の下へ相談に行った。タイ留学経験済みの先輩は皆、農学・理工系の方ばかりだったので、留学先の授業について何も情報が無いまま、手探りの状態で準備を進めた。

どのように語学を勉強しましたか？

留学先では、英語の留学生用コースではなく現地の学生と一緒にタイ語で授業を受けることを当初から決めていた。留学を決めた2011年11月時点ではタイ語の基礎中の基礎であるタイ文字をようやく覚えた程度であった。その後は常に辞書を持ち歩きしらみつぶしに語彙を覚え、動画サイトYoutubeも活用してタイの音楽や映画にも触れながら、楽しく独学での研鑽に励んだ。

留学準備スケジュール

年月	準備
2011.11	留学相談。2, 3日後、カセサート大教員がたまたま筑波大学を来訪していた関係で、筑波大学の世話役教員も含めて三者面談。
2011.12	カセサート大学からの留学許可証取得のための諸準備、つくばスカラシップ第1回申請(結果:不採用)
2012.1	佐藤陽国際奨学財団奨学金申請
2012.2	カセサート大留学許可証取得
2012.3	佐藤陽国際奨学財団面接試験(結果:不採用)、つくばスカラシップ第2回申請
2012.4	つくばスカラシップ第2回面接規約(留学開始が8月以降でなければならない)に引っかかり、採用後受給を断念。※不在となる後期授業料免除申請(10月)に関し、支援室の方に相談、準備を進める。
2012.5	ビザ取得、航空券購入、海外保険加入。その他諸準備を急ピッチで進める。
2012.6	6月8日(金)朝07:00、渡航のため、つくば駅発成田空港行高速バスに乗り込む。友人一同が見送りに来てくれ、とても嬉しかった。 留学へ！

◆◆留学体験記◆◆

留学してみてもうでしたか？

留学してよかったことは、今まで日本社会に生きてきた自身の考えや価値観を相対化できたことと、自身の見識、交友関係が大いに広がったことである。留学を通して新たに言語を一つ習得しその言語を用いて生活を営んだことも、自身にとって貴重な財産である。また非英語圏へ留学できたことも、留学＝欧米、英語習得というイメージが強く定着している中で、独自の、自分だけしか味わえないディープな体験であったといえよう。準備段階から留学中まで相談できる先輩がいなかったためにつねにトラブルはつきまとったが、その都度タイ人の学友たちの助けを借り、解決してきた。今振り返ってみても、良い留学体験ができたと自負できる。2015 年現在タイのほぼ全大学が大幅な学期改編を完了し、欧米式の 8～9 月学期開始となっている。

留学先での生活はどうでしたか？

留学にかかった費用は全て、学部 1 年次から借りていた日本学生支援機構の貸与奨学金を継続することで補填した。月々の生活費は約 12,000 バーツ程度（2011 年 6 月当時レート：約 30,000 円）であった。

- ・奨学金申請は、東南アジア対象の佐藤陽国際奨学財団、つくばスカラシップ(2 回応募あり)に申請。
- ・日本にある口座から、海外にいても直接外貨で引き出せる「キャッシュパスポート」がある。
- ・内訳：寮費 4500 バーツ（水道光熱費込）、食費 4000 バーツ（一切自炊無し）、その他 3500 バーツ。
- ・タイの寮・アパートはキッチン無しが一般的であり、1 日 3 食を全て屋台、食堂でまかかった。
- ・留学中、銀行口座は一応現地でも開設した。（帰国時に口座廃止しなければよかったと後悔している。）
- ・留学前に日本で長期留学用海外保険に加入し、費用は約 100,000 円。

大学では何をしましたか？

授業はシラバスの中から選択し、各授業の指導教授に履修の許可を伺った。履修不許可の授業も中にはあったが、前期(6～9 月)、後期(11 月～3 月)、平均して 5 コマ程度履修した（1 コマ 3 時間、コマごとに週あたり 1～2 回の授業）。平日は毎日授業、課題のため学科ラウンジ、あるいは図書館に通った。課外活動は、学期休みに所属学科（人文学部宗教・哲学科）の活動としてタイ仏教寺院への 1 週間の短期出家、オリエンテーション合宿、2 泊 3 日の登山キャンプ、自主的なバックパッカー旅行等々、充実していた。留学先のタイ人学生とは、学業一般から日常生活に至るまで大変お世話になり、深いコミュニケーションを取ることができた。分野は違えども農学部で筑波大留学経験のある学生も多々いたのは心強かった。中には留学前に筆者がチューターをしていた学生もあり、筑波大学のチューター制度に感謝した。

後輩へメッセージ

何か成し遂げたいことがあるとき、まず周囲に相談してみることが大事だと考えます。相談しているうちにまた誰かが応援してくれ、有益な情報を提供してくれることもあります。一生懸命頑張る人の姿は、皆応援したくなるものです。言語習得も、好きでやっているものは自然と身につけてきます。大学生生活を謳歌してください！

